

# 学校教師学部自己点検評価報告書

平成20年4月開設時

秀 明 大 学

## 1. はじめに

平成20年4月、学校教師学部開設にあたり、認可申請時の「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した具体的内容に基づいて自己点検評価を実施した。開設時のものであるため、今後履行し、その結果を検証しなければ評価できないものも多数ある。その場合には、計画変更の有無、準備状況を記載した。

## 2. 認可時の計画と開設時点での自己点検評価結果

認 可 時 の 計 画	自己点検評価の結果
<p><b>ア. 設置の趣旨及び必要性</b></p> <p><b>(a) 教育研究上の理念・目的</b></p> <p>(1) いつの時代にも求められる資質能力</p> <p>教師としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的情熱、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、これらを基礎とした実践的指導力など</p> <p>(2) 今後特に求められる資質能力</p> <p>①「地球的視野に立って行動するための資質能力」として、地球、国家、人間等に関する適切な理解、国際社会で必要とされる基本的資質能力</p> <p>②「変化の時代を生きる社会人に求められる能力」として、課題探求能力、人間関係能力、社会の変化に対応するための知識及び技術</p> <p>③「教員の職務から必然的に求められる資質能力」として、変化する児童・生徒の在り方に関する適切な理解、教職に対する揺るぎない愛着・誇り・一体感、教科指導・生徒指導のための知識・技術・態度</p> <p>本学が設置しようとする学校教師学部は、こうした時代と社会が求める「教員としての資質能力を備えた教員を養成すること」を目的とする。そして、その目的の実現のために、これまで他の大学において行なわれていない特色ある教育システムを大胆に導入・実施することによってその目的を達成することを期す。</p> <p><b>(b) どのような人材を育成するか</b></p> <p>(1) 教職に対する強い情熱と意欲を持ち、生涯にわたり自己研鑽に心掛ける教師</p> <p>①教師の仕事に対する使命感と誇り、子どもに深い愛情を抱くとともに、指導についての強い責任感を持っていること。</p> <p>②変化の著しい社会における教育の重要性を理解し、時代に対応したよりよき教育を行なうために常に学び続ける向上心を持っていること。</p> <p>(2) 教育の専門家としての確かな力量と実践的指導力を持った教師</p> <p>①我が国はもちろんのこと世界の国々が長い年月を経て築き上げてきた教育の理論・方法・技術について真摯に学び理解していること。特に、専門教科について高度の専門知識を持っていること。</p> <p>②教材解釈・授業をつくる力など確かな学習指導能力を持ち「授業で勝負できる」こと。</p>	<p>①教育研究上の理念・目的に変更はない。</p> <p>②この理念、目的を実現するためには学校教師学部所属教員はもとより、本学に所属する全教職員がそれを理解し、あらゆる場面においてその実現に努力することが必要である。そのため、新任教員を含め、昨年度中に何度も教員研修会を開き、趣意書の抜粋資料を配布の上、学校教師学部設置準備委員長（現同学部長）から関係教員に理念・目的について詳細に説明、周知徹底した。</p> <p>③同様に入学した全学生にも、ガイダンス期間に抜粋資料を配布の上、説明会を行って周知徹底し、学生の自覚と目的意識を高めた。</p> <p>④養成する人材像に変更はない。</p> <p>前述の理念・目的と同様、全教職員には研修会、学生にはガイダンスの折に周知徹底した。</p>

③成長発達段階にある未成年、未完成、未成熟な生徒を理解する力・生徒指導力・集団指導の力・ホームルーム経営の力などを、授業や研修・実習を通して、理論と実践の両面において身につけていること。

(3) 総合的な人間力を持った教師

①教員の一言一句が生徒たちの人格形成に大きく関わるものであるから、豊かな人間性、社会人としての常識と教養、礼儀作法をはじめ、対人関係能力を身につけ、さらには学校において他の教職員と何事も協力していく協調性やリーダーシップを持っていること。

②生徒に夢や希望、学ぶことの喜びを与えるなど、人間としての魅力を有していること。

(4) 地球的な広い視野に立って思考し、判断し、行動する資質能力を持った教師

①世界と日本の現状と課題、国家の役割、自由と平和を願う人間のあり方についてよく理解していること。

②日本の歴史や伝統と文化についての深い理解、異文化を理解し尊重する態度、世界共通語である英語によるコミュニケーション能力など国際社会で必要とされる資質能力を身につけていること。

③教育の諸問題について歴史的かつ世界的視野で考察し理解すること。

イ. 学部・学科等の特色

(a) 教養教育の重視

(b) 「教育に対する深い理論的理解」と「優れた実践的指導能力」を育成。中等教育の現職もしくは教職経験豊かな教員による指導

(c) 学寮生活による「対人対応能力」と「豊かな人間性」の育成

(d) 「全寮制中高一貫教育」の秀明学園の教育実績を活かして

(e) 「教職支援センター」の設置

(f) 「学校現場での研修」は1年次から

(g) 卒業後も「教育実践に基づく研修会」の実施

ウ. 学部・学科の名称及び学位の名称

学校教師学部  
The Faculty of Teacher Education  
中等教育教員養成課程  
Teacher Training Course in Secondary Education  
「学士」(教育学) (Bachelor of Education)

①学部・学科の特色に変更はない。

②教養教育を重視し、全26科目の教養科目を計画通り開講  
③学校長、高等学校長協会会長を務めた者をはじめ、中等教育の教員免許と豊富な指導経験を持つ10名の教員が予定通り就任し、指導に当たっている。

④秀明教育の母体であり、全寮制・中高一貫を特色とする秀明学園の教育実績を活かすため、秀明学園の寮責任者であった教員が、学校教師学部寄宿舎の責任者として指導に当たっている。

⑤計画どおり、「教職支援センター」を設置した。今後は、模擬授業の練習などについて前述の豊富な教職経験を持つ教員が交代で当たる。

⑥計画どおり、学校現場での見学・実習を実施する。すでに第1回として、本学付属の中学・高等学校の授業見学を実施し、学生全員が参加した。見学後には「参考になったこと」「改善すべきこと」をレポートさせ、それについての討論会も実施した。

⑦卒業生が出た時点で予定通り実施する。

①学部・学科・学位の名称に変更はない。

## エ. 教育課程編成上の考え方及び特色

### (a) 教育課程編成の考え方

本学部の教育課程編成の基本的考え方としたのは、次の6点である。

(1) 教育課程を「外国語科目」「情報科目」「健康・体育科目」「教養科目」「教育専門科目」「専修教科科目」の6種類によって構成し、それらの科目を総合して「教員として必要な資質能力」を育てる。

(2) 「生きた英語力」「確かな情報機器操作能力」「健康な身体と強い精神力」等の現代社会を生きる上で必要不可欠な力を伸ばすために、「外国語科目」「情報科目」「健康体育科目」を「基礎科目」として、その履修を重視する。

(3) 「自発性」から「自己確立」へという発達上の特質を持つ中学高校時代に教員から受ける影響は、生徒の一生を左右することもあるほど重要である。そのことをふまえて、学生に「深い教養」を身につけさせるために「教養科目」を多岐にわたる分野で用意した。

(4) 「教育の専門家として確かな力量を身につけさせる」ために、教育・教職について学ぶ「教育専門科目」と国語、社会、数学、理科、英語のコース別の教科の内容と教科教育法を学ぶ「専修教科科目」を設置し、それぞれの持つ役割を明確にして学修に取り組みさせる。

(5) 「授業で勝負できる力を育てる」ために、「各教科教育法」を学ぶだけでなく「教材研究」や「授業研究」などの実践的授業を設ける。さらに学校現場において「ティーチングアシスタント」や「個別学習指導」「学習指導支援」「教育実習」などの「実際に生徒に教える体験」を通じて授業指導力を育てる。

(6) 授業や学習指導、生徒指導、進路指導、学級経営、学校行事等の学校現場の諸課題についてあらかじめ授業で考察し、各自がテーマを決めて現場に行きながら学んでくる「教育実践演習」という科目を設置し、諸課題に対する実践的指導力を育てる。

### (b) 教育課程の特色

#### (1) 「生きた英語力」を育てる「外国語科目」

英語コースの学生は当然のこと国語、社会、数学、理科コースの学生も、世界共通語である英語を用いて「話す」「聞く」「読む」「書く」ことができる確かな力をつけるために「外国語科目」の必修履修単位を8単位とし、外国人教員及び日本人教員が指導にあたる。自由選択の外国語科目には英語演習Ⅰ～ⅥとしてTOEIC、TOEFL、実用英語検定、ケンブリッジ英語検定のための対策講座を開設し、英語力の一層の向上と各資格取得を支援する。

#### (2) 「確かな情報機器操作能力」を育てる「情報科目」

情報の検索、教材や諸資料の作成、授業の教具、成績処理等に、教育現場では情報機器は今や不可欠なものであり、これからの教員にはより高い情報機器操作能力が求められる。そこで「情報科目」として「コンピュータリテラシー」「インターネットリテラシー」の2科目6単位を必修とし基本的操作能力を養う。さらに、自由選択として「マルチメディアテクノロジー」をはじめ8科目を用意した。

①教育課程編成の考え方に変更はない。教育課程はこの考え方に基づいて予定どおり編成し、1年次配当科目は全て開講した。

②教育課程の特色に変更はない。特色となる科目は全て予定通り編成し、1年次配当科目は全て開講した。また、専任・兼任を問わず、全授業担当者に対して、本学部の教育課程の特色について説明し、その特色が講義に反映されるよう配慮した。また、毎時間ごとの詳細シラバスを作成させ、教科ごとの責任者が点検をした上で、計画どおりの特色ある教育課程となるよう努めている。なお、この詳細シラバスはWeb上で学生に公開している。

**(3) 「教養教育」を重視し、「人間についての深い理解と生きることへの共感」と「現代社会の課題についての理解」を図る**

教員を志すものとして特に求められる「人間についての深い理解と生きることへの共感」を育てるために「哲学概論」「倫理学概論」「歴史学概論」「心理学概論」「比較文化論」「文化人類学」「日本文化論」「音楽文化論」「美術文化論」「宗教と人間」「名著講読」の11科目を用意した。さらに「現代社会が持つ課題」についての理解を深めさせるために「経済学概論」「政治学概論」「社会学概論」「国際関係論」「時事問題研究」「日本国憲法」「法学概論」「環境と人間」「生命の科学」「エネルギーと環境」「宇宙地球科学」「くらしの科学」「食生活と健康」の13科目を開講する。その他、専門教科を問わず教員の文章表現力を伸ばすための「国語表現法」や「数学」について基礎的な理解を持たせるために「数学」等の科目も開講する。

以上の通り「教養科目」として26科目を用意した。

**(4) 「教育に対する深い理論的理解」を促す「教育専門科目」**

教育と教職について学ぶ「教育専門科目」では、我が国や世界の国々が長い年月をかけて築き上げてきた教育の思想、理論、方法、技術等について学び、理論的理解を深めることを重視する。さらに、そうした理論を教育現場の実態と照合しながら、「教員としてどのように対応したら良いか」「それはなぜか」と実践的にも理解するように導く。開講科目は、教員免許法上の必修科目である「教職概論」「教育制度論」「教育心理学」などの14科目に加えて、現職の教員が「教員養成の課程にあつたら良かった」とした科目を含め、本学が独自に設定した科目として以下の13科目がある。

心理学科目として「発達心理学」「青年心理と非行の心理」「発達障害児の心と行動」の3科目、昨今の教育をめぐる諸問題を歴史的かつ国際的視野で捉えようとする科目として「日本教育史」「海外教育研究」「教育時事問題研究」の3科目、現代社会が生み出した新たな教育課題の分析とそれへの対応を考察する科目として、「性教育概論」「生徒指導事例研究」「学級経営の理論と方法」「教育実践演習」「環境教育論」「教育コミュニケーション論」「卒業論文」の7科目である。

**(5) 「実践的教育指導能力」を育成する「教育実践演習」や「長期教育実習」**

今、教育現場で教員に強く求められているのは「生徒を理解する力」「生徒指導力」「授業をつくり指導する力」「集団を指導する力」「ホームルーム経営力」などの対人対応能力であり、これらの力は授業や実習など実際に生徒に働きかける体験を通してこそ身につくものである。この考えを踏まえ、本学の教育課程には、学校現場での実体験を十分に積む科目を用意した。「教育専門科目」の「教育実践演習」では1～3年次に付属の中学・高等学校や千葉県立高等学校、近隣の各市教育委員会管轄の小中学校、学生たちの出身中学・高等学校に出向いて「学校現場研修」「学習指導支援」「授業参観」「公開研究授業」を積み重ねる。また「教育実習」は3年次後期と4年次の2回に分けて長期間行ない、それらを通して授業指導能力と生徒指導能力などの実践的教育指導能力を育成する。

**(6) 「専修教科科目」によって「教科に関する深い知識」と「授業で勝負する力」を養う**

「教科科目」には、それぞれの教科についての専門知識を育てる科目と「教科教育法」および「教材研究」「授業研究」等の実践的科目を配置し、教材解釈、教材分析をはじめ学習指導案の作成によって「授業をつくる力」を育てる。さらに学内における「模擬授業」や学校現場で「授業実習」「公開授業研究」等の授業体験を積み重ねることで「授業で勝負できる力」と「授業を見て分析する力」を育てる。

**(c) 「学校教師学部カリキュラム検討委員会」を常設し、カリキュラムの改善充実を図る**

他学部の教員の参加も求め「学校教師学部カリキュラム検討委員会」を常設する。この委員会の任務は次の2つに大別される。

(1) 「各科目の教育実績(授業によって学生に確実に力がついているか、否か)」「学生による授業評価(満足度)」を参考に、各科目の内容や指導方法や教育課程全体について点検・評価し、より良いものに改善充実を図る。

(2) 社会の変化や学校現場の実態を踏まえ、必要に応じては中学・高校の学校関係者や教育委員会等と意見交換を行ないながら、常により良いカリキュラムにするよう改善充実を図る。

**オ. 教員組織の編成の考え方及び特色**

**(a) 実務経験豊かな教員の配置**

大学の教員養成の在り方における問題点の一つに、大学教員の指導能力の欠如が挙げられる。医学部における医師の養成にあたって、臨床経験のない教授が学生を指導することはあり得ない。しかし、教員養成においては、初等・中等教育の現場に立ったことのない大学教員が指導することが一般的となっている。ここに世間の常識との乖離が見られる。

そこで、本学部においては、専任教授に公立の高等学校長協会の要職(会長等)を務めた校長経験者、および文部科学省や教育委員会における教育行政の実務経験者等を配置し、講義や演習はもとより、「教職研修センター」における学生相談等において、現場の経験に即した実践的な指導を行う。

**(b) 若手研究者の配置**

大学における教員養成が、実践的なものであることが重要なのは当然だが、加えて研究活動に裏づけされた学問的体系が必要であることも確かである。

そこで前項で示したように、教授には実務家教員を配し、准教授、講師クラスには、30～40歳代の博士・修士の学位を持つ若手研究者を配置する。

これにより、学生は教授と精鋭の若手教員の双方から、バランスの取れた指導を受けることができる。また、教員間の関係についても、若手教員が先輩教授の指導を受けながら、学生の指導に当たるとい、言わば理想的な教員の指導体制が構築されている。

①教員組織の変更はない。予定通り、25人の専任教員が就任した。専任教員の交代もない。残り4人の教員も来年度に就任する予定である。

②学校長、高等学校長協会会長を務めた者をはじめ、中等教育の教員免許と豊富な指導経験を持つ10名の教員が予定通り就任し、指導に当たっている。

③計画どおり、若手研究者として、平成20年4月、30代の教員が6人(博士3人、修士3人)、40代の教員が6人(博士2人、修士4人)が就任した。また、平成21年度にはさらに30代の教員4人(博士3人、修士1人)が就任する。

<p><b>カ. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</b></p> <p><b>(a) 科目と授業の構成</b></p> <p>学部の科目全体を、大きく基礎科目、教養科目、専門科目に分ける。基礎科目は、外国語科目、情報科目、健康・体育科目から成る。専門科目は教育専門科目と各コースの専修教科科目から成る。</p> <p>各科目1コマを90分とし、各学期（半年）に15回の授業を行う。曜日ごとに15日の授業日を設定するので、祝日の影響で特定の曜日の授業が少なくなることはない。また、各学期の履修制限は、既存学部と同様に22単位とする。</p> <p><b>(b) 専修コースの設定と履修ガイダンス（新規追加）</b></p> <p>専修コースとして、国語、社会、数学、理科、英語の5コースを置く。学生が所属するコースは入学試験の出願時に決定し、各コースに応じた試験科目を選択する。各コースの定員は設けないが、国語45名、社会45名、数学40名、理科40名、英語80名を、適切に指導できる人数と考えており、概ねこれに沿って入学を許可する。</p> <p>履修指導のための学部ガイダンス及び学年ガイダンスは、毎学期の始め、すなわち4月上旬と10月上旬に年2回行う。ここでは、一般的な履修規程に関する説明の他に、科目選択の考え方の指導や履修モデルの提示などを行う。</p> <p>さらに各曜日の第1週目を詳細な科目ガイダンスに当てる。学生は、1コマの時間内で複数の科目ガイダンスに参加し、担当教員から直接説明を聞いた上で履修科目を決定する。</p> <p><b>(c) 担任制と履修指導</b></p> <p>本学では全学部において担任制を実施しており、担任教員は学生の履修科目の選択や登録、授業への出席、学修活動の促進、単位取得、資格取得や就職準備等について個別に指導・支援を行なっている（資料4）。特に各学期始めの履修登録にあたっては、担任との相談および担任による承認を学生に義務づけている。さらに、担任教員は講義のない時間に設定したオフィスアワーを活用して毎月1回以上の学生面談を実施し、学生の相談にのり、学修活動の促進について指導している。</p> <p>本学ではコンピュータで学生情報を一元管理するシステム（資料5）を導入しており、各担任は常に学生の出欠状況等を把握することができ、欠席が目立つ学生に対しては、担任が責任を持って指導を行なっている。担任が指導しきれない問題については、学年主任、教務主幹、学生部長、学部長などに報告の上、組織として責任ある指導を徹底している。</p> <p>学校教師学部においても、こうした担任制を実施し、専修コース毎に複数の担任を配置してきめ細かく指導する。</p> <p><b>(d) 基礎科目及び教養科目の卒業要件</b></p> <p>基礎科目は、外国語科目より8単位、情報科目より6単位、健康・体育科目より2単位をそれぞれ必修とする。教養科目は4単位を必修とする。その他に18単位を選択必修とし、両科目合計で38単位取得を卒業要件とする。</p>	<p>①各学期の履修制限を、22単位から23単位と変更した以外に変更はない。1単位増加したのは、必修科目のスポーツ演習が1単位のためである。</p> <p>②予定どおり、国語、社会、数学、理科、英語の5つの専修コースを置いた。</p> <p>③4月8日の入学式当日からその週末までの4日間を学部ガイダンス期間とし、履修規程に関する説明の他に、科目選択の考え方の指導や履修モデルの提示などを行った。</p> <p>④4月14日からの1週間は、科目ガイダンス期間とし、各教科の担当教員が授業において直接説明を行い、それをもとに学生が履修登録を行った。</p> <p>⑤予定どおり、担任制を実施し、各専修コースの担任が履修登録や自主学修のテキスト選択等について、相談ならびに指導に当たっている。さらに、担任教員はオフィスアワーを利用して学生面談を実施し、学修活動の促進に努めている。また、学生指導の状況ならびに結果を学生情報システムに記録し、今後の指導の資料として活用することも開始した。</p> <p>⑥変更はない。</p>
--	--

<p><b>(e) 専門科目の卒業要件</b></p> <p>教育専門科目より33単位を必修とし、その他に12単位を選択必修とする。また、各コース別の専修教科科目は、国語コース26単位、社会コース22単位、数学コースは28単位、理科コースは24単位、英語コースは22単位をそれぞれ必修とし、その他に国語コース10単位、社会コース14単位、数学コース8単位、理科コース12単位、英語コース14単位を選択必修とする。専門科目全体では81単位取得を卒業要件とする。</p> <p>卒業論文については、学校現場等での実践的な指導を重視することから、卒業のための必修科目とはしないが、学部での学修の成果を理論的にまとめた学生要望に対応して、教育専門科目の選択科目の一つとして設ける。</p>	<p>⑦変更はない。</p>																								
<p><b>(f) 卒業要件総単位数</b></p> <p>基礎科目及び教養科目合計38単位と専門科目81単位の他に、自由選択科目12単位を含め、全体で131単位取得を卒業要件とする。必修科目も含めた131単位の取得によって、全員が教員免許状の取得が可能になる。これは本学部の目的が教員の養成であることに合致している。</p> <p>卒業要件総単位数を最低基準の124単位よりも7単位多くしたのは、教員養成を主たる目的とする学部として、一定レベルの教養と専門性を身に付けさせるためである。一般学部生が卒業要件外で教職課程を履修する場合は、総単位数が160を越えることも稀ではなく、学生にとって決して無理な単位数ではない。</p> <p>ただし、総単位数131のうち12単位はどの科目群から選択してもよく、さらに他学部開設科目から選択してもよいこととし、学生の自由度を高めることにも配慮をしている。</p>	<p>⑧変更はない。</p>																								
<p><b>(g) 履修モデル</b></p> <p>専修教科別、年次別の履修モデルは別表(資料6)で示す。</p>	<p>⑨専修コースごとの履修モデルを作成し、ガイダンスで配布・説明し、履修登録時に学生が適切に登録を行えるよう配慮した。</p>																								
<p><b>キ. 施設、設備等の整備計画</b></p> <p>(a) 校地、運動場の整備計画  (b) 校舎等施設の整備計画  (c) 図書等の資料及び図書館の整備計画</p>	<p>⑩校地、校舎、図書いずれも計画通り整備した。引き続き、教育・研究環境の整備を計画的に進めていく。</p>																								
<p><b>ク. 入学者選抜の概要</b></p> <p>選抜方法と選抜体制</p> <table border="0"> <tr> <td>地区別入試</td> <td>定員150人</td> <td>札幌、仙台、千葉、名古屋、大阪、広島、福岡</td> </tr> <tr> <td>一般入試Ⅰ期</td> <td>定員50人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般入試Ⅱ期</td> <td>定員25人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般入試Ⅲ期</td> <td>定員25人</td> <td></td> </tr> </table>	地区別入試	定員150人	札幌、仙台、千葉、名古屋、大阪、広島、福岡	一般入試Ⅰ期	定員50人		一般入試Ⅱ期	定員25人		一般入試Ⅲ期	定員25人		<p>⑪次のとおり、変更した。</p> <table border="0"> <tr> <td>地区別入試 (A0入試)</td> <td>定員150人</td> <td>仙台、千葉、広島、福岡</td> </tr> <tr> <td>一般入試Ⅰ期</td> <td>定員100人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般入試Ⅱ期</td> <td>定員100人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>奨学生選抜特別入試</td> <td>定員100人</td> <td></td> </tr> </table> <p>地区別入試 (A0入試) 会場のうち、札幌、名古屋、大阪会場の応募者が0人であったため、会場を閉鎖した。</p> <p>また、地区別入試 (A0入試) での合格者が35名と少なかったため、一般入試Ⅰ期の募集定員を50人から100人に、Ⅱ期も25人から100人へと増員した。一般入試Ⅱ期までの合格者は93名であったため、一般入試Ⅲ期は奨学生選抜特</p>	地区別入試 (A0入試)	定員150人	仙台、千葉、広島、福岡	一般入試Ⅰ期	定員100人		一般入試Ⅱ期	定員100人		奨学生選抜特別入試	定員100人	
地区別入試	定員150人	札幌、仙台、千葉、名古屋、大阪、広島、福岡																							
一般入試Ⅰ期	定員50人																								
一般入試Ⅱ期	定員25人																								
一般入試Ⅲ期	定員25人																								
地区別入試 (A0入試)	定員150人	仙台、千葉、広島、福岡																							
一般入試Ⅰ期	定員100人																								
一般入試Ⅱ期	定員100人																								
奨学生選抜特別入試	定員100人																								

<p><b>ケ. 資格取得</b></p> <p>(a) 取得可能資格一覧</p> <p>本学部中等教育教員養成課程において取得可能な資格は次の通りである。</p> <p>&lt;国語コース&gt;</p> <p>中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）</p> <p>&lt;社会コース&gt;</p> <p>中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地歴） 高等学校教諭一種免許状（公民）</p> <p>&lt;数学コース&gt;</p> <p>中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（数学）</p> <p>&lt;理科コース&gt;</p> <p>中学校教諭一種免許状（理科） 高等学校教諭一種免許状（理科）</p> <p>&lt;英語コース&gt;</p> <p>英語コース：中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）</p> <p><b>(b) 教育実習の具体的計画</b></p> <p>(略)</p> <p><b>コ. 「学校インターンシップ」の実施計画</b></p> <p>(1) 「教育実践演習」 (2) 「教育実習」 (3) 「公開研究授業」 (4) 「介護等体験実習」</p> <p><b>サ. 自己点検・評価について</b></p> <p><b>シ. 情報の提供</b></p> <p><b>ス. 教員の資質の維持向上の方策（FD）について</b></p>	<p>別入試（定員150人）として実施した。</p> <p>最終的な受験者数は186人、合格者75人、入学者67人であった。</p> <p>今年度の状況を踏まえて、来年度入試は次のとおり、計画している。</p> <p>推薦入試（指定校） AO入試 一般入試（センター利用） 一般入試Ⅰ期 一般入試Ⅱ期 一般入試Ⅲ期 (それぞれの募集定員は現在検討中)</p> <p>①取得可能資格に変更はない。 ②教員免許状取得に必要な教職課程認可を受けている。</p> <p>①4年次に計画通り実施する予定である。</p> <p>①早速、附属中学・高等学校での授業見学を実施した。 ②4年次に計画通り実施する予定である。 ③4年次に計画通り実施する予定である。 ④3年次に計画通り実施する予定である。</p> <p>①別紙履行状況報告書のとおりである。</p> <p>①別紙履行状況報告書のとおりである。</p> <p>①別紙履行状況報告書のとおりである。</p>
---	---